



11月は、生成AI(学習したデータをもとに新しいデータを生成するAI)の領域で大きな話題が続い

ボルテックス 安田 憲治



た。特にOpenAI社の発表は、業界全体のみならず世間一般からも大きな注目を集めた。6日にサンフランシスコで開かれた同社イベントではGPT-4 Turbo(ターボ)を公表、従来のChatGPT-4が約3・3万トークン(一度に処理できるテキスト

また、同イベントでは「GPTストア」の立ち上げが明かされた。GPTストアは、利用者が独自にAIプログラムを作成し、それを他の人に公開したり販売したりできる新たな取り組みだ。このシステムを使用し、AI活用で特定のプロジェクトやアイデアの実

を開発することができる。一方、OpenAIの経営陣の動きも大きな注目を集めた。17日、同社CEOのサム・アルトマン氏が一時的に解任され、その後マイクロソフト社のAI研究部門責任者として参加することになったものの、結局OpenAI社に戻る結論

エプサイトを巡回して情報を集める方法)で動向レポートを生成・発信したり、ビルや住宅の過去情報を学習させて新たな設計図面を生成するなど、中国の不動産テック企業が動きを見せている。転職サイトを運営するビズリーチ社は、サイト登録者の職務経歴書作成を補助するツ

11月の生成AIの動向、事業での活用

トデータの量)だったところ、新バージョンは12・8万トークンに達し、これまでにはないレベルの複雑なタスク処理をChatGPTで行えるようになった。

現が手軽になる。教育の領域では子供たちが算数を楽しく学べるAIプログラムを、アートやデザインの領域ではユニークなステッカーが作れるAIプログラム

となった。この動きは、AI業界の倫理、ガバナンス、リーダーシップのあり方を示す事例として注目された。

今後各業界で生成AIの活用は今後も広がる。個人の業務利用を越え、企業や社会全体の利益を上げるような新たなビジネスモデルの創出が期待される。

◇やすだ・けんじ 一橋大学院経済学研究科修士課程修了。大手総合アミューズメント企業で、データサイエンスの経営戦略への反映に取り組む。現在、株式会社ボルテックスにて、社内データコンサルティングに携わる。多摩大学社会的投資研究所研究員。

今後各業界で生成AIの活用は今後も広がる。個人の業務利用を越え、企業や社会全体の利益を上げるような新たなビジネスモデルの創出が期待される。

今後各業界で生成AIの活用は今後も広がる。個人の業務利用を越え、企業や社会全体の利益を上げるような新たなビジネスモデルの創出が期待される。